



日程	学校名	プログラム	参加イベント名
2/19 (木)	朝日塾中等教育学校	MYP	校内見学



探究的な学び



今回のスクールツアーでは、MYPとDPの授業を中心に、言語と文学、数学、理科などの各教科をじっくり見学しました。どの教室でも、生徒たちが自分たちで問いを立て、活発に意見を交わしながら答えを探していく「探究的な学び」のスタイルがとても印象的でした。また、在校生や卒業生、先生方と直接お話しする時間も頂きました。実際に学んでいる方々の生の声を聴くことで、世界に目を向けた教育の楽しさや、生徒が主役となって共に成長していく学校の温かい雰囲気を感じることができました。

協働とICT活用による実践

従来の「先生が解説し、生徒がノートを取る」という受動的な座学を想像していましたが、実際のIBの教室は、に入った瞬間にそのイメージが覆されました。机を輪にして座るスタイルから、全員が対等に意見を出し合えるオープンな雰囲気を感じました。

数学では、教員が提示した問いに対し、生徒がグループで対話を重ねて答えを導き出すプロセスが印象的でした。モニター上の図形を自由自在に動かしたり、デジタルツール「Kahoot!」を用いたクイズ形式の理解度確認など、テクノロジーを駆使した視覚的・体験的なアプローチにより、抽象的な問題も分かりやすく提示されていました。

また、言語と文学では、教科書という形ではなく、一冊の小説を深く読み解く探究的な学びが行われていました。iPadを活用し、個々の疑問をリアルタイムで共有・可視化する方法は、教員が答えを与えるのではなく、生徒同士の対話から新たな気づきが生まれる仕組みとなっていました。生徒が主体となって授業を形作る様子を目の当たりにし、IB教育が目指す「10の学習者像」の姿を明確に実感することができました。

生徒主体の授業をめざして

私は将来数学の教師になりたいと考えており、今回目の当たりにした「生徒主体の学び」を体現したいと考えています。単に解法を教えるだけでなく、ICTを効果的に活用して図形やグラフを動的に可視化し、生徒の直感的な理解と興味を引き出す授業を目指します。

また、教員が正解を提示する前に、生徒同士が対話を通じて答えを導き出すプロセスを重視し、数学をより楽しみながら学べるよう追求していきたいです。



記事製作者 柳生 捺稀
(岡山理科大学 理学部2年)

日程	学校名	プログラム	参加イベント名
2/19 (木)	朝日塾中等教育学校	MYP	校内見学



問いによって進む授業



今回スクールツアーで訪問したのは、岡山県に所在する朝日塾中等教育学校である。同校は国際バカロレア（IB）の教育課程を導入しており、数学、言語と文学、個人と社会、English、生物、化学、理科の授業を参観した。各授業では、IBの理念に基づき、生徒の探究を中心とした主体的・対話的な学習活動が展開されていた。教員はファシリテーターとして問いを提示し、生徒同士の協働的な思考を促す指導が行われており、国際的視野と批判的思考力の育成を重視した実践がなされていた。

また生徒や教員との懇談も行い、学校生活や国際バカロレアについて質問などを行った。

国際的視野と批判的思考力の育成

今回の見学を通して、国際バカロレアの理念が学校全体に浸透し、日々の授業実践に具体的に表れていることを実感した。留学生が多く在籍し、日本人の生徒と自然に混ざり合いながら学ぶ環境は、多様な文化や価値観に触れ、互いを尊重しながら考えを深める土壌となっていた。授業では教員がファシリテーターとして本質的な問いを提示し、生徒同士の協働的な思考や対話を促しており、国際的視野と批判的思考力の育成を重視していることが明確であった。

また、ICT機器を効果的に活用することで意見の共有や思考の可視化が図られ、学びがより双方向的なものとなっていた。英語教育にも力が注がれ、英語での発言や議論が日常的に行われている点も印象的である。成果物はレポートやプレゼンテーションとしてまとめられ、探究の過程そのものが重視されていた。生徒一人一人の好奇心の強さにも驚かされた一方で、知識を与える前に興味を喚起することの難しさ、そして深い探究には確かな基礎知識の理解が前提となることにも気づかされた。

授業作りのヒント

今後の教育実践においては、生徒の興味・関心をいかに喚起し、学びへと結び付けるかを重視したい。そのために、単に知識を伝達するのではなく、問いや課題の提示を工夫し、生徒自身が「なぜだろう」と考えたい導入を設計することが重要であるとする。また、教員がファシリテーターとして学習を支え、生徒同士の対話や協働を通して主体的に探究できる環境を整えたい。一人一人の好奇心を出発点とし、それを深い学びへと発展させる授業づくりに活かしていきたい。



記事製作者 野母 天
(岡山理科大学 理学部2年)